

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193000047		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	上福岡グループホームそよ風		
所在地	埼玉県ふじみ野市上ノ原1-5-8		
自己評価作成日	2021年3月17日	評価結果市町村受理日	令和3年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9
訪問調査日	令和3年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今期に関してはコロナ禍もあり行事として外出行事や日々の生活の中でご利用者様を連れての買い者、理美容、音楽療法の活動など、自粛せざるを得ない状況が続いてしまった。またご家族の面会やボランティアの中止など他者の訪問を制限せざるを得ない状況も出来てしまい、閉鎖された施設運営となってしまったことは否めない。ただ今までとは違う屋内での活動や行事出来たと思う。施設周辺の散歩や外気浴は続けた。その他毎日の食事作りや梅干し作り、パン作りや家庭菜園など家庭的な環境や取組は最低限保てたとも思っている。グループホームの特性を活かし、ご利用者様には一人ひとり役割を持っていただき、日々の生活の中で能力を発揮して頂いた。新型コロナウイルスについては感染症対策に力を入れた。絶対に感染者を出さないを目標に職員の感染症に対する意識改革、感染対策や環境整備など力を入れた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●新型コロナウイルス蔓延防止のため、家族の面会を縮小・制限していますが、「屋外から面会する」・「リモート機器を使用する」等にて代替し、家族との関係維持を支援しています。また、手書きの通信等にて利用者の様子を伝え、安心してもらえるよう努めています。
 ●習慣や趣味が継続できるよう配慮にあたっており、利用者同士の関係性についても職員が間に入りながら維持できるよう努めています。法人の作品展にも積極的に参加するなど利用者の楽しみが増えるよう取り組んでいます。
 ●野菜を切る、味噌汁をつくる、食材を混ぜるなど利用者一人ひとりの能力にあわせて食事作りへの参加がなされています。「できることを大切にする・家庭的な環境とする」ホームの理念が本支援に現れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は意識していない職員が多い。また理念を知っていても細分化できていない職員が多く、ケアの方向性にズレが生じることが多々ある。	パンフレットの作成・配布等居宅介護支援事業者を含めた地域に対して情報の発信にあたっている。認知症の研修に関しては管理者がタッチすることなく職員にて研さんが進められるほど浸透が図られている。	理念の浸透に関しては階層が上の職員が模範となる必要があり、職員での話し合いと振り返りをし、他の職員へ説明ができる体制としていく意向をもっている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつ交流は減ってきており、特にコロナ禍に伴い外部との接触は控えている。	中学校のチャレンジ学習の受け入れ等により地域との親睦を図ってきたが新型コロナウイルスの影響により中断しているが、自治会からは情報をもらうなど継続した関係が維持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習、傾聴ボランティア、介護相談員等受け入れていたがコロナ禍により休止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文面での報告はあるが一方通行であり、サービスの向上には活かされていない。またコロナ禍により運営推進会議も書面のみ開催もあった。	新型コロナウイルスの影響から書面開催にて実施している。来年度より2ヶ月に1回の開催を予定されており、状況を見ながら開催方法や集合方法を考慮していく意向をもっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは何かあった場合や不明点があった場合には相談するようにしている。また運営推進会議を活用して事業所の実情等を報告している。	行政の訪問等により指導や確認がなされている。行政からの備品提供等によりコロナ禍にあっても衛生と健康に配慮した支援に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回繰り返し研修を行い再確認している。又、3カ月に一度委員会も開催。その内容は全職員に伝え理解と意識を高めている。	身体拘束廃止委員会・研修の実施によりケアの確認にあたっている。事故等のリスク・家族の要望・職員の負担など様々な要因を考慮し、適切な支援への意識を身につけるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い学んでいる。又、ヒヤリハット等で小さな事も見過ごされる事がないよう職員同士で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスで話題にする事はあっても、ここ数年は制度を学ぶ機会には設けていない。利用者様の後見人や支援員とは、訪問時に相談や近況を伝えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約書、重要事項説明書、重度化・看取りに関する指針について説明している他、わからない所は随時、質問を受けつけている旨を伝えている。法改正で変わった内容については説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の訪問時や電話等で要望を伺い、家族要望・連絡記録帳を用いて職員同士で共有。貴重な意見として運営に反映させている。	新型コロナウイルス蔓延防止のため、家族の面会を縮小・制限している。屋外から・リモート機器を使用して代替しており、手書きの通信等にて利用者の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全体会議を行い、運営についての報告をしている。また社長自ら職員に向けたメッセージの発信や意見を取るためのアンケートの実施を行っている。	全体会議・フロア会議にて利用者の状況の確認や支援方法の検討がなされている。職員同士の意見交換によりケアプランへの反映やケアの統一を図っている。	新型コロナウイルスに対して職員に陽性者がでた場合の応援体制の確認・ワクチン接種時の支援等を確認していく必要性を認識している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場の大変さを理解し、現場優先で物事を考えている。特に職員を育てる仕組みづくりに力を入れ、適度に職員に仕事を振るようにもしている。また職場環境の整備として職員の補充にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年度で研修計画を立てている。法人内での研修では限られた職員しか参加が出来ていない状況ではあるが、実務者研修の開催など資格取得に向けた学校も設立した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流についてはコロナ禍もあり、通常とは違うオンラインでの開催となった。ただそのおかげで、なかなか会う機会の少ない全国の同業者との意見交換や学ぶ機会を得ることが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の実態調査の段階から、本人とコミュニケーションを図り、困りごとや要望など情報収集をし、入居後に安心した生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申し込みの段階でご家族の困っていることを聞くようにしている。サービスが導入される際にも必ず、要望をお聞きして、グループホームでの生活が利用者様にとってより良いものになるよう介護計画にも入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前より、生活するうえで何が必要なのか、現在何に困っているのかを確認している。介護保険ではなく医療保険も含めた提案等をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長い時間、長い年月を共に過ごしているのので、職員とご利用者様の良い関係が築けている。ただ利用者様の意思を尊重した日々の生活を送りたいが、どうしても職員都合となっていることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相談したり、されたりと、共に支えている関係を築いている。何をするにしても本人や家族が優先されるべきであり、職員としては情報提供や適切な助言に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外出は控えており、馴染みの場所や人の関係は途絶えている。ご家族についても面会制限があったりしたが、オンラインでのテレビ電話を活用した。	習慣や趣味が継続できるよう配慮にあたっている。利用者同士の関係性についても職員が間に入りながら維持できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つの作業を複数の方に参加して頂き、コミュニケーションが取れるように支援している。レクや外気浴等でリラックスした場を提供し、会話や交流が持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了してもご家族様からお届け物を頂くことや連絡が来ることもある。また通りかかったと寄っていただいた方もいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活ではあるものの、一人一人の意向を把握し、それに添った生活を支援している。意思表示の困難な方へは表情と汲み取り、また担当者会議で検討や見直しをし、本人が何を望んでいるのか考えるようにしているが本人本位ではない。	利用者の表情・目つきなどを観察し、気持ちを汲み取れるよう努めている。職員個々に把握した情報はフロア会議等にて共有するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族の状況、生活環境を考慮し、それを元にケアプランを作成、反映に努めている。ご本人との日常会話から情報を得る事もあるが、時には事前にいただいた情報を再確認する必要がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に日常生活を過ごし、心身状態の把握に努めている。変化があれば記録し職員同士で共有している。有する力においては、残存能力活かす以外にも潜在能力を見つける必要性を感じている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にてご本人の現状や今後の課題を話し合い、ご本人やご家族様の要望も取り入れ作成している。	サービス担当者会議での検討、日々の記録確認を経てケアプランの策定がなされている。利用者個々の課題を意識し、支援方法の共有・より良いケアの探究に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録以外に変わった状態(精神状態等)を他の紙にまとめている。気づいて事は各職員がその紙に記入し、職員間で共有するようにしている。ケアプランは主に短期計画、又は状態変化時に問題点の意見交換を行い、見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況は日々変わる。その時に大事なことを本人や家族の思いを優先し、困難なニーズにも応えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は大切にしたいと考えているがコロナ禍もあり出来ていない状況が続いている。美容院や図書館、地域の店への買い物も自粛するようになった。感染状況が落ち着いたら再度活用できるようにしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては本人やご家族の希望を聞き入れている。協力医療機関に契約いただいた場合には関係構築に努め、必要な時に必要な医療が受けられる体制は作れている。	家族の協力を得ながら医療機関への受診等がなされている。熱発等に対しても医療機関に相談しながら適切な対応に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな事でも情報を伝え相談し、アドバイスや適切な処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院者はいなかったが、入退院の際には医療関係者やご家族と情報交換をしている。入院することにより認知症の悪化なども踏まえ早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、早い段階に見極め、ご家族や医療関係者との担当者会議を開催している。担当者会議にて家族と医療側の意見、事業所で出来ること、医療保険に頼るところなど、大切な終末期を心をついて送ってあげられるよう職員が間に入っている。	重度化と終末期の支援に対しては指針を作成し、入居時等に説明に努めている。家族・医療機関と連携し、利用者が望む環境にて最期まで見届けられるよう支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的ではなく、あまり身についているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行っているものの突然の災害時に、訓練の成果が出し切れるか不明。地域との協力体制もどこまで築けているのか不明。	コロナ禍にあっても通常どおり定期での避難訓練を実施している。またヒヤリハット報告については予防意識の向上に取り組んでおり、その成果を認識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	繰り返し研修で伝えてはいるものの、適切でない声掛けを耳にすることもある。ミーティングや定期開催の身体拘束適正化委員会で話し合ったりしている。	業務や時間に追われる中、利用者に対して丁寧な接遇となるよう取り組んでいる。利用者に不快な思いをさせないよう配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望に添いたい気持ちはあるものの時間帯によっては添えない時もある。また職員の都合の良いように誘導してしまっていることもある。言葉を発せない方に対しては職員の都合になっている事も多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にしたいと考えているが希望に添えない時間帯もあつたり、ほとんどの方が希望に沿うことが出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やエプロン着用、髭剃りなどその人らしい身だしなみが出来るよう声掛けや介助をしているが一部の方に偏ってしまっている。理髪にしても機能性を重視してしまっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、能力に応じて準備や盛り付け片付けに参加して頂いているが、一部の方の参加であつたり、手持無沙汰になっている方もいる。一回の食事の準備でも多数の方に参加できるようにしていきたい。	野菜を切る、味噌汁をつくる、食材を混ぜるなど利用者一人ひとりの能力にあわせて食事作りへの参加がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分量は把握しているが、栄養バランスは難しい。なるべく多くの食材を使用し偏りがないようにしているがバランスが取れているかは不明。個々の状態に応じ食形態も変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや見守り、時に介助にて毎食後行っている。ご本人に任せてしまっていることもあるが、介助を必要としている方もいる。また適切な口腔ケアができるよう、技術も磨く必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の間隔を把握し、トイレ誘導を行っている方もいるが、職員都合となっている方もいる。日中排泄の失敗がない方にリハビリパンツを使用している為、見直しする必要がある。	排せつの記録と確認により時間での誘導とトイレでの排せつにあたっている。排せつ状況を見て利用者の健康状態を把握し、管理や報告に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については便通が良くなるお茶を購入し提供している。水分摂取はお茶以外にも牛乳やオリゴ糖等を提供。便秘の方には便座に長く座って頂き排便を促している。運動量はもっと増やしていく必要がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングについては入浴チェック表をもとに声かけをしている。入浴の人数は数値化することで、より多くの方が入浴できるようにはなったが、職員都合のペースになることもある。ゆずや入浴剤で入浴を楽しめるようにしている。	入浴を拒否する場合には、声掛け方法を変えるなど工夫に努めている。無理強いくことなく時間や職員を変えながら利用者のリズムを大切にしよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息については本人の気持ちを優先しているが、職員都合となっていることもある。睡眠時間については夜の安眠を妨げないような時間を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等、全職員が理解しているとは言えない。薬が変わった時は体調や症状の変化を観察し、皆で共有している。時に薬の見直しを行い、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活全般、能力に応じて支援しているが、出来る方が時間多くを持て余す事もある。役割や得意分野を活かせるよう個々に合わせた支援をしていく必要がある。多くの方に参加して頂けるよう配慮しているが、職員によっては偏ってしまっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により外出は出来ないが、ベランダや玄関先での外気浴、ゴミ捨て外に行ったり、庭の花や野菜を見に行ったりと、外の空気に触れる機会を作っている。	コロナ禍にあつて外出機会が減るものの、ベランダや庭にて日光浴がなされている。また運動器具を居室に持ち込み、体力低下防止を図るなどの対応もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	好きなものを買ひ、お金を管理する事は楽しみにも繋がり、支援しているが、今はほとんどの方がその能力を持ち合わせておらず、一部の人に限られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望はほとんど無いが、ご家族様からの手紙やビデオ電話にて交流が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や飾り物、習字等で季節を感じられるよう工夫しているが季節にそぐわない物もある。絵画や行事の写真も展示している。物品については破損や劣化がある。共有スペースについては、動線を考える必要があると感じている。	居室、廊下等には写真等飾られ、日常に彩りが加えられている。法人の作品展にて入賞をはたした製作物も展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳みを利用し居場所作りを提供しているが、畳みは洗濯物のたたみ場所だけとなっていたり、利用者様同士過ごす空間としては活かしきれていない。居場所づくりとして職員が介入する必要がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階で使い慣れた家具や故人の仏壇等、今まで使っていたものを持ち込んで頂いており、いつでも思い出に触れられる。生活の経過と共に危険であったり使い勝手が悪かったりする場合はご家族様と相談の上、配置を変えている。	利用者それぞれに仏壇、タンス、ソファなどが持ち込まれており、利用者の思い思いの生活ができるよう配慮されている。日中はリビングで過ごすことも多いが、読書、テレビ鑑賞などプライベートな時間も楽しむ環境が準備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段や廊下に手すりがついており、一階、二階へと、自由に行き来して頂いている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念について言葉は知っている職員がいるものの、中身をしっかりと身につけている職員は少ない。理念について把握しきれないことで、介護の間で考え方などズレが生じてきている。	施設職員の中からメインとなる職員を人選し、その方たちを中心に理念の再確認と再学習をする。その職員は更に別の職員の模範となり、理念について教える(勉強会)機会を作り、実際に講師を務めてもらう。講師をすることで特定の職員は更に理念を理解することができる。	①特定の職員を人選する。 ②理念の共有のための今回のプロセスを集まってもらい説明する。 ③勉強会の実施。 ④他の職員へ伝えるための講師をしてもらう。	10ヶ月
2	2, 4, 6, 7, 35	新型コロナウイルスの影響もあるが、地域交流の機会が減ってきてしまっている。運営推進会議も書面上の開催が多い。運営推進会議も2か月に1回の開催のため、開催方法を検討したい。また運営推進会議にて何をしているのか知らない職員もいるため、極力管理者以外の参加もしていきたい。	管理者以外の職員も参加し、地域の方と交流を図れるようにする。いつも通りの書面上の開催もしつつ、身体拘束の委員会や避難訓練実施の運営推進会議も開催したい。ただし新型コロナウイルスの状況を踏まえる。	運営推進会議への職員参加を促していく。運営推進会議の年間日程を決め、シフト作成時に調整する。身体拘束廃止委員会や避難訓練は運営推進会議の日程で検討していく。ただし新型コロナウイルスの状況も考えていく必要があるため12か月の目標とする。	12ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。